**青い目のまなざし―日ロの漫画、読み物、大衆文化考察―**

モスクワの地下鉄で読み物を持つのは、車内で時間を楽しく過ごす普通の方法です。若い人も中高年の人も本や新聞や雑誌を読みます。東京では…。

いわゆる現代社会の幼児化は、子供の頃から活字のテキストに触れる機会が少ない事が、問題の根本だとしたら言い過ぎでしょうか。

日本では「罪と罰」などが漫画の形で売られています。ロシアでドストエフスキーの作品は娯楽読み物とは全く思われていません。…中途半端な印象受けるだけでもったいないなと思います。

（日本ユーラシア新聞より抜粋）

（クセニア・レシチェンコさん）

**（今回のお話の論点）

1. *ビジュアルな非活字文化に傾斜する日本の若者と*

*時代風潮。*

1. *読書は知的な仕事の一種、人間の思考は言葉に*

*よって形成される。*

1. *滔々たる娯楽化の流れの中で、娯楽化出来ない物*

*は切り捨てられる（文学の危機）、他。*

**「日本・ロシア活字文化比較講話」（流暢な日本語で）**

主　催　アストライアの会　　共　催　au bon cafe

後　援　日本ユーラシア協会　活字文化推進会議　他　　　　　　　　　　　 （滝澤文一氏撮影）

ゲスト　クセニア・レシチェンコさん　法政大学国際日本学インスティチュート博士課程

日　時　平成２７年１月３１日（土）午後２時から５時

場　所　豊島区立勤労福祉会館第七会議室　池袋駅西口より消防署先、徒歩約１０分

費　用　お茶代込み参加費二千円（後半の時間はゲストを交えたお茶会です）

連絡先　TEL/FAX ０４９（２５８）３２１８　松原まで　[メールinfo@asutoraia.com](mailto:メールinfo@asutoraia.com)

備　考　会場の受け入れの都合で、申し込み先着順とさせて頂く場合もございます。

**クセニア・レシチェンコさん紹介**

　　　　　　　　　　　　　　モスクワ生まれ。モスクワ大学附属アジア・アフリカ

諸国大学で日本の歴史・文化を学ぶ。

将来、本国の大学で日本の江戸時代の講座を持つ事が夢。

趣味は写真、旅行、テニス。中学校訪問ボランティアも。